

(実験B) 5. (A)の結果程判然としぬしが収た現象が見られる。

(実験C) 6. 上側或は下側に生長素を塗布したことによりその塗布部分にカルス形成が旺盛となつたり膨瘤がみられた。発根は不良であつたが必ず発根如何にかゝらず下側からということは見られなかつた。

7. 膨瘤が形成されるに従ひ細胞分裂を行うところの競争が稍々減少して行くのに反し蛋白質が増加してゆく傾向が見られた。

佐賀縣に於けるナタールパーク樹 の育苗成績について

小谷内 正 一

比較的気象條件に恵まれている当県に於ては、有用なナタールパーク樹を繁殖しなければならぬものと思う。その普及奨励に當つては、最も手近かな事例を示し育苗手段の的確を期さねばならぬ。この見地から県管川上苗圃に於て試みて見た本樹の育苗と成績の概略とを左に紹介する。

1. 使用した種子は、昨年7月下旬熊本支場日高技官から分譲を受け、本年3月4日直袋に入れたまゝ室内天井に吊し貯蔵した。その種子を熊鷹浸漬による発芽促進を行い、一日陰乾の上3月5日播種した。これが発芽成績は別紙第一の通りである。
2. 本年5月28日播種床の近くに準備した床地に距離阿隔共30種になる如く移植したのである。移植床には基肥として過磷酸石灰平方米当り50g施用し、生育途中は3回の除草をしたのみで追肥其の他肥料管理はしなかつた。今移植してから現在迄の成績を示せば第二表の通りである。
3. (1) 種子は播種直前に於て熊鷹の浸漬時間は約一時間位が無難の様である。
(2) 播種の間に生長を促進するため基肥に速効性のものを用いる事は効果的であろう。
(3) 移植の際は根の乾燥を特に予防し移植操作も敏捷に行ひ又移植直後日覆を用いる工夫が活着率を高める上に必要である。
(4) 発芽を定時に播栽する場合と雖も前項の注意が忘れられては活着至難であろう。
(5) 葉を喰害する金龜虫の成虫捕殺のこと。
4. 愛するに当県の平地地は常時薪炭材の欠乏になやまされているから、生長の早い本樹種を推奨したのは当然で、殊に最近油桐やハセ等の栽培が旺んとなるにつれこれには肥料木の混植は必要だと考えられている。この状態から判断しても佐賀県では忘れてならぬ造林樹種の一つである事を痛感し、敢て育苗成績として取り纏めて見た次第である。

第一表 種子発芽状況調

播種環境 時間	播付 年月日	播付粒数	発芽本数(本)			播付粒数に対する 発芽の歩合%	備 考
			4月1日	4月6日	4月21日		
30分区	25.3.5	100	10	61	20	91	種子は24年7月 から発芽時蔵す
60分区	同上	100	15	67	16	98	生 上
計		200	25	128	36	95	

(註) 播種床、30種×50種、発芽促進 25.3.4

第二表 移植後の成績調

- 一、使用苗木 第一段で発芽を完了した苗木全部
- 二、移植年月日 昭和25年5月28日
- 三、活着率 72% (189本に対し136本活着)
- 四、生長関係調 友の圃りである。但し昭和25年10月25日調

種 別	平均	最 大	最 小	測定 呼称	備 考
幹 長	763	1260	320	種	平均値は2.0本に付
根 際 直 径	29	120	5.0	花	〃
枝 数	6	11	2	本	〃

- (註) 1. 場 所 佐賀県佐賀郡奥宮川上苗圃
- 2. 圃 場 壤土、pH 大工原法 41.27
- 3. 基 肥 過燐酸石灰平方米当 30元
- 4. 移植苗間 30種平方に1本

桐樹天狗糞病の呼吸作用について

徳 重 陽 山

桐樹天狗糞病に罹病している桐樹と健全桐樹との間に於ける生理的变化を比較研究する為めに先づ両者の呼吸量を葉について測定した。

測定には酸素吸収量を換圧的に表示し得る器具11個を製作し、1個を各検用とし他の10個を用いて10枚の葉の呼吸量を同時に測定した。葉の結果を連算式により、1時間における生量/瓦当りの酸素吸収量を算出し更に0°Cの差に換算した。

〔実験結果〕